

# AI動画分析サービスおよびプラットフォーム比較レポート

## I. 導入

### AIによる動画分析の重要性とビジネス価値の高まり

現代において、動画データは爆発的に増加しており、その量は企業や組織が手動で処理・分析できる限界をはるかに超えています。監視カメラ映像、オンラインストリーミング、ソーシャルメディア、研修コンテンツなど、あらゆる場面で動画が生成・活用されていますが、その膨大な情報の中から価値ある洞察を引き出すことは大きな課題となっています<sup>1</sup>。

このような背景の中、人工知能(AI)を活用した動画分析技術が急速に進化し、ビジネスにおける重要性を増しています。AIは、人間が行っていた時間のかかる、あるいは間違いの起こりやすい動画の確認作業を自動化し、高速かつ高精度に内容を解析することを可能にします<sup>1</sup>。これにより、単に映像を確認するだけでなく、動画コンテンツを検索可能にし、構造化されたメタデータを抽出し、実用的な知見へと変換することができます<sup>3</sup>。

AI動画分析は、メディア資産管理の効率化<sup>3</sup>、不適切コンテンツの迅速な検出とフィルタリングによるコンプライアンス遵守とブランド保護<sup>3</sup>、視聴履歴やコンテンツ内容に基づいたレコメンデーションによるユーザーエンゲージメントの向上<sup>3</sup>、作業現場の動作分析による生産性向上<sup>10</sup>、顧客行動分析によるマーケティング戦略の最適化<sup>6</sup>など、多岐にわたる分野で具体的なビジネス価値を創出しています。AIは、動画という非構造化データに隠された価値を解き放ち、新たなビジネスチャンスを生み出す鍵となりつつあります。

### 本レポートの目的

本レポートは、日本市場で利用可能な主要なAI動画分析サービスおよびプラットフォームについて、技術的・商業的観点から包括的な比較分析を提供することを目的とします。特に、主要なグローバルクラウドプロバイダーであるGoogle Cloud、Amazon Web Services (AWS)、Microsoft Azureが提供するサービスと、日本国内で注目される特化型ソリューションやスタートアップ企業のサービスを取り上げます。

各サービスについて、提供会社、公式ウェブサイトURL、主要な機能(物体認識、シーン検出、文字起こし、感情分析など)、そして料金体系(無料枠の有無、課金モデル、見積もり要否など)を明確に提示します。これにより、企業や開発者が自社のニーズや予算に最適なAI動画分析サービスを選定する際の、客観的で信頼性の高い情報を提供することを目指します。

## II. 主要クラウドベースAI動画分析プラットフォーム

### 概要

AI動画分析の分野では、Amazon Web Services (AWS)、Microsoft Azure、Google Cloud Platform (GCP) といった主要なクラウドプロバイダーが支配的な役割を果たしています。これ

らのプラットフォームは、自社の広範なインフラストラクチャと高度な機械学習(ML)の専門知識を活用し、スケーラブルで機能豊富な動画分析サービスを提供しています<sup>12</sup>。共通する戦略として、開発者が容易に利用できるよう、事前トレーニング済みの高度なAIモデルをAPI経由で提供する一方で、特定のニーズに対応するためのカスタマイズオプションも用意されています<sup>2</sup>。

## A. Google Cloud Video AI

- 会社名: Google Cloud<sup>3</sup>
- サービス名: Video Intelligence API & AutoML Video Intelligence<sup>3</sup>
- URL:
  - グローバル: <https://cloud.google.com/video-intelligence><sup>3</sup>
  - 日本語: <https://cloud.google.com/video-intelligence?hl=ja><sup>16</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - Google Cloud Video AIは、事前トレーニング済みモデルを提供する「Video Intelligence API」と、カスタムモデルのトレーニングを可能にする「AutoML Video Intelligence」の2つの主要コンポーネントで構成されています<sup>3</sup>。特にAutoMLは、機械学習の深い専門知識がないユーザーでも、独自のカスタムエンティティラベルを作成し、特定のオブジェクト分類や追跡モデルを構築できる点が特徴です<sup>3</sup>。これにより、標準APIの事前定義ラベルではカバーできない、固有の分析要件にも対応可能です。
  - 主要機能:
    - 物体・ラベル検出: 20,000以上のオブジェクト、場所、アクションを認識<sup>3</sup>。動画、ショット、フレームレベルでのメタデータ抽出。
    - シーン・ショット変更検出: 動画内のシーンやショットの切り替わりを自動検出<sup>3</sup>。
    - コンテンツモデレーション: 不適切なコンテンツ(Explicit Content)の検出<sup>3</sup>。
    - テキスト検出 (OCR): 動画内のテキストを検出し、抽出<sup>3</sup>。
    - 音声文字変換: 自動でのクローズドキャプションや字幕生成<sup>3</sup>。
    - その他: ロゴ認識、有名人認識(アクセス制限あり)、顔検出(ベータ版)、人物検出と姿勢推定(ベータ版)<sup>3</sup>。
    - 保存済み動画とストリーミング動画(ベータ版)の両方に対応<sup>3</sup>。
  - ユースケース: コンテンツの発見性向上、動画カタログ検索、メディア管理・アーカイブ作成、コンテンツモデレーション、レコメンデーションエンジンの構築、コンテキスト広告の挿入支援など<sup>3</sup>。Googleの堅牢なインフラ上で動作します<sup>3</sup>。
  - RESTおよびRPC API、グラフィカルユーザーインターフェース(GUI)を通じて利用可能<sup>3</sup>。
- 費用:
  - 無料枠: すべての顧客に対し、毎月1,000ユニット(Video Intelligence APIの場合、保存済み動画1,000分とストリーミング動画1,000分に相当)が無料で提供されます。新規顧客はさらに最大300ドル分の無料クレジットを利用できます<sup>3</sup>。

- 従量課金制 (**PAYG**): 無料枠を超過した分は、使用した機能と動画の分数に基づいて課金されます。料金は機能ごとに異なります。例えば、保存済み動画の場合(米ドル): ラベル検出 \$0.10/分、ショット検出 \$0.05/分、オブジェクトトラッキング \$0.15/分、音声文字変換 \$0.048/分(en-USのみ)など。ストリーミング動画分析は若干高いレートが設定されています<sup>16</sup>。
- **AutoML Video Intelligence**: モデルのトレーニングにはノード時間あたり \$0.42 が課金されます<sup>18</sup>。
- 詳細な料金は公式ドキュメントや料金計算ツールで確認可能です<sup>16</sup>。月間10万分を超える大規模利用の場合は、営業担当者への問い合わせによる割引の可能性があります<sup>18</sup>。
- 技術情報:
  - **モデル**: 事前トレーニング済みMLモデル(API)と、AutoMLによるカスタムモデル構築<sup>3</sup>。Vertex AIを通じて、Geminiのような最新のマルチモーダルモデルも視覚タスクに利用可能<sup>14</sup>。
  - **API/SDK**: REST API、RPC APIを提供。Python、Node.jsなどのクライアントライブラリが利用可能<sup>3</sup>。TensorFlow連携用のJavaScriptライブラリも存在<sup>20</sup>。
  - **ドキュメンテーション**: 包括的である一方、情報量が多く冗長と感じられる可能性も指摘されています<sup>19</sup>。チュートリアルやクイックスタートも提供<sup>3</sup>。公式ドキュメントへのリンクあり<sup>16</sup>。
  - **サポート**: 大規模プロジェクトは営業担当者やパートナーへ相談。標準のGoogle Cloudサポートチャネル、コミュニティフォーラムも利用可能<sup>16</sup>。
  - **セキュリティ/プライバシー**: Google Cloud全体の堅牢なセキュリティ基盤上で提供されます。顧客は自身のデータを所有し、Googleは契約に従ってのみデータを処理します<sup>14</sup>。
- 分析と考察 (**Google Cloud**):
  - Google Cloudは、広範な事前トレーニング済み機能と、AutoMLによるアクセスしやすいカスタマイズ機能の両方を強調しています。これは、迅速な導入を求めるユーザーと、特定のカスタムオブジェクトやラベル検出が必要なユーザー双方のニーズに応えようとする戦略を示唆しています。標準APIとAutoMLが明確に区別され、後者がカスタムラベル作成を容易にする手段として位置づけられていることから、カスタムML導入の障壁を下げようとする意図がうかがえます<sup>3</sup>。
  - Compute Engine、Cloud Storage、BigQuery、Vertex AI、Geminiといった広範なGoogle Cloudエコシステムとの統合は、既にGoogle Cloudを利用している、または利用を計画している組織にとって大きな利点となります。Google自身のインフラを活用している点<sup>3</sup>、Vertex AIとの連携によるカスタムモデル開発<sup>17</sup>、Geminiモデルの利用可能性<sup>14</sup>などは、データストレージ、処理、そして動画インサイトと他のデータ分析との組み合わせをGCP内でシームレスに行える可能性を示しています。
  - 料金体系が機能ごと、分単位で細分化されている点は、柔軟性を提供する一方で、コスト管理の重要性を高めます。特に、無料枠を超えて複数の機能を同時に利用す

る場合、適用される機能ごとにコストが発生するため、注意深い監視が必要です<sup>16</sup>。  
無料枠は比較的寛大ですが、意図せず高額な請求が発生するリスクも内包しています。

## B. Amazon Rekognition Video

- 会社名: Amazon Web Services (AWS)<sup>24</sup>
- サービス名: Amazon Rekognition Video (保存済み動画分析 & ストリーミングビデオイベント)<sup>2</sup>
- URL:
  - グローバル: <https://aws.amazon.com/rekognition/video-features/><sup>6</sup>
  - 日本語: <https://aws.amazon.com/jp/rekognition/><sup>25</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - Amazon S3に保存された動画と、Amazon Kinesis Video Streams経由のライブストリームを分析します<sup>2</sup>。保存済み動画の分析は非同期APIモデルを採用しており、「Start」オペレーションで分析を開始し、完了通知をSNS/SQSで受け取り、「Get」オペレーションで結果を取得する流れです<sup>2</sup>。
  - 主要機能:
    - ラベル検出: オブジェクト、シーン、アクティビティの検出<sup>2</sup>。
    - コンテンツモデレーション: 不適切または安全でないコンテンツ(露骨な表現、暴力など)の検出<sup>2</sup>。
    - 顔分析: 顔の検出、属性分析(感情、年齢、性別など)、顔比較、保存された顔コレクションに対する顔検索<sup>2</sup>。
    - 人物追跡: 動画内の人物の動き(パス)を追跡<sup>4</sup>。
    - 有名人認識: 著名人の識別<sup>2</sup>。
    - テキスト検出: 動画内のテキスト(歪んだテキストも含む)を検出<sup>2</sup>。
    - 動画セグメント検出: ブラックフレーム、クレジット(開始/終了)、ショットチェンジ、カラーバーなどを検出<sup>7</sup>。フレーム精度でのタイムコードを提供<sup>30</sup>。
    - カスタムラベル: 少数のサンプル画像から特定のオブジェクト(ブランドロゴ、製品など)を検出するカスタムモデルをトレーニング可能<sup>7</sup>。
    - ストリーミングビデオイベント: 主に人物、ペット、荷物などの特定のオブジェクトをリアルタイムで検出し、アラートを送信することに特化<sup>6</sup>。
  - ユースケース: メディア資産の検索・インデックス作成、コンプライアンス・ブランドセーフティ確保、コンテキスト広告、コネクテッドホーム(人物・荷物検知アラート)、小売分析(買い物客の動線・属性分析)、オンライン本人確認、公共安全など<sup>4</sup>。
- 費用:
  - 無料枠: AWSアカウント作成から12ヶ月間、毎月60分の動画分析(ラベル検出、コンテンツモデレーション、顔検出・検索、有名人認識、テキスト検出、人物追跡)が無料<sup>7</sup>。
  - 従量課金制 (PAYG): 処理された動画の分数に基づいて課金されます。保存済み動



画とストリーミング分析で料金レートが異なり、機能によっても変動します。例(保存済み動画、米ドル): ラベル検出 \$0.10/分、コンテンツモデレーション \$0.10/分、顔検索 \$0.20/分、人物追跡 \$0.20/分、セグメント検出 \$0.10/分。ストリーミング分析は一般的に分あたりの単価は低いですが、リアルタイム処理に適用されます<sup>27</sup>。

- ストレージ費用: 顔検索機能のために保存される顔メタデータに対して、月額・顔あたり \$0.00001 の費用が発生します<sup>27</sup>。
- ストリーミング分析の場合、Amazon Kinesis Video Streamsの利用料金が別途発生します<sup>27</sup>。
- 技術情報:
  - モデル: 深層学習ベースの事前トレーニング済みモデルおよびカスタマイズ可能なコンピュータビジョンモデル<sup>6</sup>。カスタムラベル機能で特定のオブジェクト認識モデルをトレーニング可能<sup>7</sup>。
  - **API/SDK:** 保存済み動画用には非同期API(Start/Getオペレーション)。ストリーミング動画用にはストリームプロセッサAPI(Create/Start/Describe/Delete StreamProcessor)を提供<sup>2</sup>。Java、Pythonなど多様な言語向けのSDKが利用可能<sup>2</sup>。
  - ドキュメンテーション: 一般的に評価が高いとされています<sup>19</sup>。技術文書、例、チュートリアルが利用可能<sup>2</sup>。
  - サポート: 標準のAWSサポートチャネル、AWS re:Post(フォーラム)、ナレッジセンターなどが利用可能<sup>25</sup>。
  - セキュリティ/プライバシー: AWSのセキュリティインフラを活用。プライバシーポリシーへのリンクあり<sup>25</sup>。コンテンツモデレーション機能はブランドセーフティやコンプライアンス確保に寄与<sup>6</sup>。
- 分析と考察 (AWS Rekognition):
  - AWS Rekognitionは、同社のストレージサービス(S3)およびストリーミングサービス(Kinesis Video Streams)との緊密な統合を前提として設計されています。これは、既にAWSエコシステムに深く投資している組織にとっては自然な選択肢となりますが、データが他の場所にある場合にはパイプラインの構築が複雑になる可能性があります。保存済み動画分析にはS3バケットが、ストリーミング分析にはKinesis Video Streamsがそれぞれ必須であることは、この統合の強さと依存関係を示しています<sup>2</sup>。
  - 保存済み動画分析とストリーミングビデオイベントで、料金体系と提供機能が明確に区別されている点は注目に値します<sup>6</sup>。これは、大規模アーカイブの詳細分析(保存済み)と、特定のイベント(コネクテッドホームでの人物・荷物検知など)に対するリアルタイムアラート(ストリーミング)という、異なる主要ユースケースにそれぞれ最適化しようとする戦略を反映しています<sup>32</sup>。ストリーミングサービスは、低遅延・低コストで特定のオブジェクト検出に焦点を当てている点で、保存済み動画の広範な分析オプションとは対照的です。
  - 保存済み動画APIの非同期性(Start -> Notify -> Get)は、このサービスが即時のイ

インタラクティブな分析よりも、大規模なバッチ処理向けに設計されていることを示唆しています<sup>2</sup>。完了通知を処理するためにSNS/SQSキューやLambda関数といった追加のインフラが必要となり、Getオペレーションを直接ポーリングすることは推奨されていません<sup>24</sup>。これは、大量の動画ファイルを効率的に処理するためのアーキテクチャ選択と言えます。

### C. Azure AI Video Indexer

- 会社名: Microsoft Azure<sup>9</sup>
- サービス名: Azure AI Video Indexer<sup>9</sup>
- URL:
  - 製品ページ: <https://azure.microsoft.com/en-us/products/ai-video-indexer/><sup>9</sup>
  - ポータル: <https://www.videoindexer.ai/><sup>35</sup>, <https://vi.microsoft.com/><sup>5</sup>
  - APIポータル: <https://api-portal.videoindexer.ai/><sup>37</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - Azure AI Video Indexerは、Azure AIサービス(Face, Translator, Azure AI Vision, Speechなど)上に構築されたクラウドおよびエッジ(Azure Arc経由<sup>9</sup>)の動画分析サービスです。30以上のAIモデルを実行し、動画・音声から多角的なインサイトを抽出します<sup>8</sup>。
  - 主要機能(音声・動画):
    - 音声: 文字起こし(多言語対応、話者分離、カスタムモデル対応)、翻訳(50言語以上)、言語自動検出、感情分析(テキストベース)、キーワード・トピック・固有表現抽出、話者統計、音声効果検出(銃声、拍手など)<sup>5</sup>。
    - 動画: 顔検出・特定(カスタム、著名人含む - アクセス制限あり)、物体検出、視覚コンテンツモデレーション(成人向け・不快)、テキスト認識(OCR)、シーン・ショット・キーフレーム検出、クレジットロール・黒フレーム検出、観察された人物の追跡(衣服含む)、テキストロゴ検出<sup>5</sup>。
  - 独自機能:
    - AIベースの動画編集機能(クリップ作成、ハイライトリール生成)<sup>5</sup>。
    - 埋め込み可能なウィジェット(Player, Insights)によるアプリケーション統合の簡素化<sup>5</sup>。
    - 抽出されたインサイト全体に対する横断検索機能<sup>5</sup>。
    - Bring-Your-Own-Model (BYOM) のサポート<sup>42</sup>。
  - ユースケース: 動画ライブラリのディープサーチ、コンテンツ作成支援(予告編、ハイライト)、アクセシビリティ向上(字幕、翻訳)、収益化支援(広告シグナル)、コンテンツモデレーション、レコメンデーション、企業研修、ナレッジマネジメントなど<sup>5</sup>。
- 費用:
  - 無料試用: Webサイトユーザーは最大10時間、APIユーザーは最大40時間の無料インデックス作成が可能<sup>43</sup>。(過去には600分/2400分との記載もあり<sup>9</sup>、最新情報の確認が推奨されます)。Azure無料アカウントでは\$200のクレジットも利用可能<sup>9</sup>。

- 従量課金制 (**PAYG**): 入力ファイルの分数に基づいて課金されます。料金は分析タイプ(オーディオ/ビデオ)と、選択する機能バンドル(Basic, Standard, Advanced)によって異なります<sup>40</sup>。
- 料金階層 (米ドル/分): Basic Audio (\$0.0126), Standard Audio (\$0.024), Advanced Audio (\$0.04), Basic Video (\$0.045), Standard Video (\$0.09), Advanced Video (\$0.15)。顔のぼかし処理は \$0.01/分<sup>43</sup>。BasicプリセットはAzure Arc経由でも利用可能<sup>41</sup>。
- 詳細な料金は公式ドキュメントや料金計算ツールで確認が必要です<sup>9</sup>。
- 技術情報:
  - モデル: Azure AIサービス(Face, Translator, Vision, Speech)上に構築された30以上のAIモデル群<sup>8</sup>。カスタムモデルのトレーニングやファインチューニングに対応<sup>9</sup>。顔認識関連機能は利用に際し申請と承認が必要な場合があります<sup>5</sup>。
  - **API/SDK**: REST APIが主要なインターフェース<sup>9</sup>。埋め込みウィジェットも提供<sup>35</sup>。広範なAzure VisionサービスにはSDKが存在しますが、Video Indexer自体はAPI中心<sup>19</sup>。GitHubにコードサンプルあり<sup>42</sup>。
  - ドキュメンテーション: Microsoft Learn、開発者ポータルで提供<sup>34</sup>。ハウツーガイド、コンセプト解説、APIリファレンス、リリースノートなどが含まれます<sup>34</sup>。
  - サポート: 標準のAzureサポートチャネル。FAQも利用可能<sup>44</sup>。
  - セキュリティ/プライバシー: Azureのセキュリティ基盤(年間10億ドル以上の投資)を活用<sup>9</sup>。詳細はトラストセンターで確認可能<sup>39</sup>。責任あるAIの原則に基づき、顔認識機能へのアクセスは制限されています<sup>8</sup>。ユーザーはアップロードするコンテンツに対する法的権利と同意を確認する責任を負います<sup>8</sup>。
- 分析と考察 (**Azure Video Indexer**):
  - Azure Video Indexerは、音声と動画の両方から得られるインサイト(文字起こし、翻訳、感情、キーワード、顔、オブジェクト、OCRなど)を抽出し、それらを統合されたタイムライン上で提供する、包括的な「マルチモーダル」インサイトエンジンとしての位置づけを強く打ち出しています。機能リストには音声・動画双方の多様なAIモデルが並び<sup>5</sup>、ポータルのスクリーンショットや説明からも、これらのインサイトが単一のタイムラインに統合されている様子がうかがえます<sup>35</sup>。サービス名自体が「Indexer」であることも、これらの複合的なインサイトに基づいたリッチな検索可能インデックスの作成を意図していることを示唆しています。
  - 埋め込み可能なウィジェット<sup>5</sup>やAI搭載のエディタ<sup>5</sup>の提供は、開発者が抽出されたメタデータの上に、ユーザー向けのアプリケーション(高機能なメディアプレイヤーやコンテンツ作成ツールなど)を迅速に構築できるよう支援することに重点を置いていることを示唆しています。これは、単なるAPIアクセス提供を超えた、開発労力の削減を意図したアプローチと言えます。
  - 音声分析と動画分析それぞれにBasic、Standard、Advancedという階層型料金体系<sup>40</sup>を採用している点は、コスト管理の選択肢を提供する一方で、必要な機能に基づいて適切な階層を選択する必要がある、機能ごとの課金モデルと比較してコスト見

積もりが複雑になる可能性があります。Basicプリセットの導入<sup>41</sup>は、より低コストでの利用開始を可能にする動きを示しています。この構造は、機能とコストのトレードオフをプリセットレベルで行うことをユーザーに求めています。

### III. 注目の特化型および国内AI動画分析サービス

#### 概要

グローバルなクラウド大手に加えて、いくつかの特化型サービスや日本企業が、特定のニッチ市場、エッジコンピューティングのような特定のデプロイメントモデル、あるいは新しいインターフェースをターゲットとした独自の動画分析機能を提供しています<sup>10</sup>。

#### A. Video Questor (NDI Sol)

- 会社名: NDI Sol (日本ダイナミクスイメージングソリューションズ株式会社)<sup>50</sup>
- サービス名: Video Questor<sup>50</sup>
- URL: <https://solution.ndisol.jp/videoquestor><sup>50</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - 動画コンテンツと対話するためのユニークな「チャットインターフェース」を提供します<sup>50</sup>。ユーザーは自然言語で質問や指示を与えることができます。
  - アップロードされた動画(音声、字幕、視覚シーン)をAIが自動的に解析します<sup>50</sup>。
  - 基盤となる生成AIがチャットプロンプトに応答し、動画の要約作成、内容に関する質疑応答、マニュアル文書の生成、コンテンツの翻訳、そして特定のシーンへ素早くアクセスするためのタイムコード付きリンクの生成などを行います<sup>50</sup>。
  - このサービスは、同社が提供する生成AIプラットフォーム「Questella」上で動作しており、Questella単体での利用も可能です<sup>50</sup>。
  - ユースケース: 人材育成・トレーニング(動画内容の要約・重要箇所の特定による学習効率向上)、技術継承・ナレッジ共有(ベテランの暗黙知を形式知化)、社内問い合わせ対応(研修動画をFAQ代わりに利用)、マーケティング(市場調査動画からの要点抽出・レポート作成支援)など<sup>50</sup>。
- 費用:
  - サブスクリプションベースの料金体系です。Video Questorは月額250,000円から、基盤プラットフォームのQuestellaのみの場合は月額100,000円から利用可能です<sup>50</sup>。
  - 初期費用は無料です<sup>50</sup>。
  - ヒアリング後、30日間の無料トライアルが提供されます<sup>50</sup>。
  - プランごとにストレージ容量の上限があり、1ファイルあたりの最大サイズは10GBです<sup>50</sup>。
- 分析と考察 (Video Questor):
  - Video Questorは、生成AIとチャットインターフェースを活用して動画コンテンツと対話するという新しいアプローチを採用しています。これは、単なるメタデータ抽出を超え、



会話形式での情報探索や、要約・マニュアルといった派生コンテンツの生成を可能にする点で革新的です。動画の内容理解と活用方法に新たな可能性をもたらす試みと言えるでしょう<sup>50</sup>。

- 月額25万円からという価格設定<sup>50</sup>は、個人や小規模プロジェクトよりも、むしろ企業や部門レベルでの利用を想定していることを示唆しています。高度なナレッジ共有、効率的な研修、あるいはサポート業務の改善といった、投資対効果が見込めるエンタープライズユースケースに適していると考えられます<sup>50</sup>。

## B. SCORER (Future Standard)

- 会社名: 株式会社フューチャースタANDARD (ウェブサイトURLから推定)
- サービス名: SCORER Platform & Solutions<sup>52</sup>
- URL: <https://www.scorer.jp/><sup>52</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - 映像・画像解析に特化したAIシステム開発プラットフォームです<sup>52</sup>。
  - 30種類以上の学習済みAIアルゴリズムやネットワークへのアクセスを提供します<sup>52</sup>。
  - クラウドAIとエッジAIの両方のソリューションを提供し、柔軟な構成が可能です<sup>52</sup>。
  - 特定ソリューション例:
    - 交通量計測: クラウド/エッジ対応、国土交通省導入実績モデルあり<sup>52</sup>。
    - 顔認証: 高精度アルゴリズム活用(入退室管理、VIP検知など)<sup>52</sup>。
    - 人物行動分析: 3次元骨格推定、滞在時間計測、動線解析、年齢・性別推定、密集検知、徘徊検知、群衆カウント<sup>52</sup>。
    - インフラ・設備監視: 路面クラック検知、特定車両検知、ナンバープレート認識<sup>52</sup>。
    - セキュリティ: 侵入検知、サイネージ視聴効果計測、転倒検知、水難事故防止監視<sup>52</sup>。
    - その他: 会議文字起こし・要約(ミーナビ)、画像生成AIツール(生成AI GO)、AI品切れ検知、ヘルメット装着判定など<sup>52</sup>。
  - ニーズや予算に応じてアルゴリズムを組み合わせる柔軟性を強調しています<sup>52</sup>。SCORER Area Counterのようなエッジデバイスも提供<sup>52</sup>。
- 費用:
  - ウェブサイト上には具体的な料金は記載されていません。問い合わせフォームまたは資料請求を通じて見積もりを取得する必要があります<sup>52</sup>。
  - 自社での完全開発と比較した場合のコスト削減の可能性を示唆しています<sup>52</sup>。
- 分析と考察 (SCORER):
  - SCORERは、単なるAPI機能の提供にとどまらず、交通量計測、路面クラック検知、顔認証といった具体的な課題に対応する多数の「ソリューション」をメニュー形式で提供するプラットフォームとして位置づけられています。これは、一般的なユースケースに対して迅速な導入を可能にするアプローチです。アルゴリズムの組み合わせや<sup>52</sup>、Traffic Counterのようなパッケージ化されたソリューション<sup>52</sup>は、エンドツーエンドのアプリケーション提供に重点を置いていることを示しています。

- クラウドとエッジAIの両方を強く打ち出している点<sup>52</sup>、そしてSCORER Area Counterのような特定のエッジハードウェアを提供している点<sup>52</sup>は、多様なデプロイメントニーズに応える戦略を示しています。特に、リアルタイム処理、プライバシーへの配慮、ネットワーク帯域の制約といった要因からエッジコンピューティングが有利なシナリオ（侵入検知や年齢性別推定など<sup>52</sup>）への対応力がうかがえます。このデュアルアプローチは、純粋なクラウドサービスにはない柔軟性を提供します。

### C. SATLYS (Toshiba)

- 会社名: 東芝 (Toshiba Corporation)<sup>53</sup>
- サービス名: SATLYS 映像解析AI<sup>53</sup>
- URL: <https://www.global.toshiba/jp/products-solutions/ai-iot/satlys.html><sup>53</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - 東芝が検証済みの学習済み映像解析AIモデルを、クラウドAPI、オンプレミス用SDK、およびエッジ用SDK (NVIDIA Jetson対応) の形態で提供します<sup>53</sup>。
  - 既存のカメラ設備を活用できるよう、カメラに依存しない設計となっています<sup>53</sup>。
  - 主要機能:
    - 人物・物体: 検出・追跡、複数カメラ間追跡、顔認識、属性推定（年齢・性別）、骨格推定（姿勢・視線）、行動認識、不審行動検知、人数カウント（ライン通過、エリア内）、群衆密度推定<sup>53</sup>。
    - 異常検知: ひび割れ、錆、道路損傷などの変状・異常を画像から検出<sup>53</sup>。
  - 複数のAIモデルを組み合わせ、より複雑な検知シナリオに対応可能です<sup>53</sup>。
  - ユースケース: 防犯・監視・見守り、小売分析（来店客属性・動線）、製造業（欠陥検査、工程改善）、インフラ点検（ひび割れ・錆検出）、O&M（設備異常検知、予防保全）など<sup>53</sup>。歩留まり改善、検査効率化、運転自動化なども例として挙げられています<sup>53</sup>。
- 費用:
  - 具体的な料金体系は公開されていません。直接の問い合わせまたは資料ダウンロードが必要です<sup>53</sup>。
  - 導入にあたっては、通常、概念実証 (PoC) の実施が前提となります<sup>53</sup>。
- 分析と考察 (SATLYS):
  - 東芝のSATLYSは、検証済みの事前学習モデルをクラウド、オンプレミス、エッジ（Jetson含む）という多様な環境に展開できる柔軟性を前面に出しています。これは、既存のインフラ（特にカメラ設備）を活用したい、あるいは特定のデプロイメント要件を持つ企業にとって魅力的な選択肢となります<sup>53</sup>。カメラ非依存性<sup>53</sup>も、既存資産の有効活用を重視する組織には有利な点です。
  - 導入に際してPoCが前提とされていること<sup>53</sup>、そして製造業、O&M、インフラ監視といった産業系のユースケース<sup>53</sup>に焦点が当てられていることから、SATLYSは単純な既製品利用よりも、複雑でカスタマイズされたエンタープライズ向けの導入を志向していると考えられます。これは、導入プロセスにおいてコンサルテーションや検証が必

要となることを示唆しています。

#### D. Ollo Factory (Ollo)

- 会社名: 株式会社Ollo<sup>55</sup>
- サービス名: Ollo Factory<sup>11</sup>
- URL: <https://www.ollo.jp/><sup>63</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - 工場の生産現場における作業工程を、カメラ映像を用いて解析することに特化したAIソフトウェアです<sup>11</sup>。
  - ユーザーが作業現場の動画をアップロードすると、AIが繰り返し行われる作業サイクルを自動的に検出し、すべての作業時間を計測します<sup>11</sup>。
  - 作業時間のばらつき、作業の抜け漏れ、非効率な動作(ムダ)などを客観的に特定します<sup>11</sup>。
  - 手本となる1サイクルの開始点と終了点を指定するだけで、AIが動画全体を詳細に分析するため、設定が容易です<sup>11</sup>。
  - 日本の製造業における「カイゼン(継続的改善)」活動を、客観的なデータに基づいて支援することを目的としています<sup>11</sup>。
  - ユースケース: 製造プロセスの分析、生産性向上、作業標準化、カイゼン活動の支援<sup>11</sup>。住友電装、GEヘルスケア・ジャパンなどの企業で採用実績があります<sup>11</sup>。
- 費用:
  - 具体的な料金は公開されていません。デモの依頼や見積もりについて、企業への問い合わせが必要です<sup>63</sup>。
- 分析と考察 (Ollo Factory):
  - Ollo Factoryは、製造現場における詳細な作業分析という極めて専門的な領域に特化しており、カイゼンのような確立された改善手法を支援することに焦点を当てています。「Ollo Factory」という製品名<sup>55</sup>、作業者の動き・サイクル・ばらつき・ムダの分析に言及する説明<sup>11</sup>、そしてカイゼンへの明確な言及<sup>11</sup>は、この狭く深い産業プロセス最適化への集中を示しています。
  - このサービスは、従来人間が目視で行っていた時間のかかる作業観察やストップウォッチ計測を自動化し、改善活動を推進するための客観的データを提供することを目指しています。特に、大規模な生産ラインやグローバルに展開する製造拠点において、標準化された分析手法を提供できる点で価値が高いと考えられます<sup>11</sup>。

#### E. AWL (AWLBOX / AWL Lite)

- 会社名: AWL株式会社<sup>60</sup>
- サービス名: AWLBOX & AWL Lite<sup>60</sup>
- URL: <https://awl.co.jp/><sup>62</sup>
- サービス概要と主要機能:
  - エッジAIソリューションに重点を置き、特に小売業やスマートシティ用途での活用が進

んでいます<sup>60</sup>。

- **AWLBOX:** 既存の防犯カメラなどに接続し、AIによる映像解析機能を追加するエッジAIデバイスです<sup>60</sup>。来店客の属性分析、店内動線分析、商品接触状況の把握、不審行動検知、接客が必要な顧客の特定などに利用されます<sup>67</sup>。
- **AWL Lite:** タブレット端末やセットトップボックス(STB)にAIカメラ機能を統合したもので、デジタルサイネージと組み合わせて利用されることが多いです<sup>60</sup>。サイネージの視聴者属性や視聴状況进行分析し効果測定を行ったり、店舗の混雑状況をモニタリングしたりします<sup>70</sup>。
- 主要機能: 人数カウント、属性分析(年齢・性別)、滞在時間分析・ヒートマップ、行列検知、マスク着用検知、不審行動検知、サイネージ視聴者分析など<sup>64</sup>。
- ユースケース: 小売店舗分析(マーケティング、オペレーション効率化、万引きロス削減)、スマートビルディング・スマートシティ(人流分析、混雑緩和)、デジタルサイネージ効果測定、感染症対策(マスク検知、混雑モニタリング)など<sup>62</sup>。ローソン、サッポロ、羽田イノベーションシティ、百貨店、スーパーマーケット、カフェなど、多数の具体的な導入事例が報告されています<sup>64</sup>。
- 費用:
  - 主要サイトには具体的な料金は記載されていません。企業への問い合わせが必要です<sup>62</sup>。AWL Liteについては、低価格であることが示唆されており<sup>62</sup>、あるブログ記事では月額4,000円/台と言及されていますが<sup>71</sup>、公式な確認が必要です。
- 分析と考察 (AWL):
  - AWLはエッジAIによるデプロイメントを強く指向しており、既存のインフラ(カメラ、サイネージ)と統合し、ローカルで分析を実行するように設計されたハードウェアソリューション(AWLBOX, AWL Lite)を提供しています。店舗やビルといった物理空間内でのリアルタイム分析が求められるユースケース<sup>64</sup>において、エッジ処理は低遅延やプライバシー保護の面で利点があります。Idein社との協業<sup>83</sup>も、エッジへの注力を裏付けています。
  - 同社は小売業界および関連アプリケーション(スマートシティ、デジタルサイネージ)に明確な焦点を当てています。これは、多数の具体的な小売業での導入事例<sup>65</sup>や、店舗分析に特化した機能(サイネージ分析<sup>70</sup>、商品接触分析<sup>67</sup>など)からも明らかです。

## IV. 比較概要表

以下の表は、本レポートで取り上げた主要なAI動画分析サービスの概要を比較したものです。機能、料金体系、主なユースケース、デプロイメントモデルといった観点から、各サービスの特徴を一覧できます。

会社名 (Company)	サービス名 (Service)	URL (抜粋)	主な機能概要 (Key)	料金体系 (Pricing)	主なユース ケース	デプロイメ ント
------------------	--------------------	----------	-----------------	-------------------	--------------	-------------

Provider	Name	Link	Features Overview	Model	(Primary Use Cases)	(Deployment)
Google Cloud	Video Intelligence API & AutoML Video Intelligence	<a href="https://cloud.google.com/video-intelligence?hl=ja">cloud.google.com/video-intelligence?hl=ja</a>	物体/ラベル検出(>2万種)、シーン/ショット検出、不適切コンテンツ検出、OCR、文字起こし、顔/人物検出、ロゴ/有名人認識。AutoMLでカスタムモデル作成可。保存/ストリーミング対応。	無料枠あり(1000分/月)。超過後は機能毎の従量課金(例: ラベル検出 \$0.10/分)。AutoMLはノード時間課金。\$300新規クレジット。	メディア検索/管理、コンテンツモデレーション、レコメンデーション、広告挿入	Cloud
Amazon Web Services (AWS)	Amazon Rekognition Video (Stored & Streaming)	<a href="https://aws.amazon.com/jp/rekognition/">aws.amazon.com/jp/rekognition/</a>	ラベル検出、コンテンツモデレーション、顔検出/分析/検索、人物追跡、有名人認識、テキスト検出、動画セグメント検出(フレーム精度)。カスタムラベル作成可。保存/ストリーミング対応。	無料枠あり(12ヶ月、60分/月)。超過後は機能毎の従量課金(例: 保存動画ラベル検出 \$0.10/分)。ストリーミングは別料金体系。顔メタデータストレージ費用あり。	メディア検索/管理、コンプライアンス、広告挿入、コネクテッドホーム、小売分析、本人確認	Cloud
Microsoft Azure	Azure AI Video Indexer	<a href="https://azure.microsoft.com/en-us/pro">azure.microsoft.com/en-us/pro</a>	多機能(30+モデル): 文字起	無料試用あり(時間制限)。超過	メディア検索/管理、コンテンツ作	Cloud, Edge (via Azure Arc)



		<a href="https://ducts.ai-video-indexer/">ducts.ai-video-indexer/</a>	こし(多言語/話者分離)、翻訳、顔/物体/OCR、感情/センチメント分析、キーワード/トピック抽出、シーン/ショット検出、コンテンツモデレーション。AIエディタ、埋込ウィジェット、BYOM対応。	後は機能バンドル (Basic/Standard/Advanced) と分析タイプ (Audio/Video) に基づく従量課金 (例: Standard Video \$0.09/分)。	成支援、アクセシビリティ、広告挿入、モデレーション、ナレッジマネジメント	
NDI Sol	Video Questor	<a href="https://solution.ndisol.jp/videoquestor">solution.ndisol.jp/videoquestor</a>	チャットインターフェースによる動画操作。AIが要約、質疑応答、マニュアル作成、翻訳、タイムコード生成。Questella基盤。	サブスクリプション (月額25万円〜)。初期費用無料。30日間無料トライアルあり。	人材育成、技術継承、社内問い合わせ対応、マーケティング分析	Cloud
Future Standard	SCORER Platform & Solutions	<a href="https://www.scorer.jp/">www.scorer.jp/</a>	30種以上の学習済みAIソリューション (交通量、顔認証、骨格推定、滞在時間、クラック検出、動線分析、侵入検知、ナンバープレート認識、密	要問い合わせ (見積もり)。	交通管理、インフラ監視、小売分析、セキュリティ、製造業支援	Cloud, Edge

			集検知など)。			
Toshiba	SATLYS Video Analysis AI	<a href="http://www.global.toshiba/jp/products-solution/s/ai-iot/satlys.html">www.global.toshiba/jp/products-solution/s/ai-iot/satlys.html</a>	学習済みモデル提供 (人物/物体検出・追跡、顔認識、骨格推定、行動/異常検知、人数カウント、密度推定、変状検知)。カメラ非依存。	要問い合わせ (見積もり)。PoC実施前提。	防犯/監視、小売分析、製造業 (検査/O&M)、インフラ点検	Cloud (API), On-Premise (SDK), Edge (SDK for Jetson)
Olo	Olo Factory	<a href="http://www.ollo.jp/">www.ollo.jp/</a>	製造現場の作業分析特化。動画から作業サイクル自動検出・計測。ばらつき、抜け、ムダの特定。カイゼン支援。	要問い合わせ (見積もり)。	製造プロセス分析、生産性向上、作業標準化	Cloud (推測、要確認)
AWL	AWLBOX & AWL Lite	<a href="http://awl.co.jp/">awl.co.jp/</a>	エッジAIデバイス (AWLBOX: 既存カメラ接続、AWL Lite: タブレット/STB型)。人数カウント、属性分析、滞在時間、動線、マスク検知、サインネージ分析。	要問い合わせ (見積もり)。AWL Liteは低価格示唆。	小売分析 (マーケティング/運営/防犯)、スマートシティ、サインネージ効果測定	Edge

## V. 結論と推奨事項

### 多様な選択肢の要約

本レポートで分析したように、AI動画分析の市場は、広範な機能とスケーラビリティを提供する主要クラウドプロバイダー（Google Cloud, AWS, Azure）と、特定のニーズやデプロイメントモデルに特化した専門ベンダーや国内企業（Video Questor, SCORER, SATLYS, Ollo Factory, AWL）が共存する、多様な選択肢が存在する状況となっています。クラウドプラットフォームは汎用性と強力なエコシステム連携を提供する一方、特化型ソリューションは独自のインターフェース、特定の産業への深い適合性、あるいはエッジコンピューティングへの注力といった特徴を持っています。前述の比較概要表は、これらのサービスの主な違いを俯瞰する上で役立ちます。

### 選定における主要な考慮事項

最適なAI動画分析サービスを選定する際には、以下の要素を総合的に評価することが重要です。

- **機能セットと精度:** プロジェクトの要件（特定の物体認識、文字起こしの精度、コンテンツモデレーションの基準など）と、サービスが提供する機能が合致しているかを確認する必要があります。AIモデルの精度は、学習データやアルゴリズム、そして分析対象となる動画の品質によって変動するため、実際のデータを用いたテストや評価が不可欠です<sup>1</sup>。
- **スケーラビリティとパフォーマンス:** 大量の動画データを処理する必要がある場合や、将来的な拡張を見込む場合は、クラウドプロバイダーのスケーラビリティが有利です。一方、リアルタイム性が最重要視される用途では、通信遅延の少ないエッジソリューションが適している場合があります<sup>12</sup>。
- **予算と料金モデル:** サービスのコスト構造（従量課金、サブスクリプション、見積もりベース）が、予算や予想される利用量と整合しているか検討が必要です。特にクラウドサービスの従量課金は、利用する機能やデータ量によってコストが大きく変動する可能性があるため、慎重な見積もりと監視が求められます<sup>16</sup>。異なる課金モデル間での直接的なコスト比較は複雑な場合があります。
- **統合と開発工数:** APIやSDKの利用しやすさ、ドキュメントの質、ウィジェットのような開発支援ツールの有無は、導入・統合にかかる時間とコストに影響します<sup>19</sup>。既存のクラウド環境（AWS, Azure, GCP）との親和性も重要な考慮事項です<sup>3</sup>。
- **デプロイメントモデル:** データの機密性、リアルタイム処理の要件、ネットワーク環境の安定性などに応じて、クラウド、エッジ、オンプレミス、あるいはハイブリッドのいずれが最適かを判断する必要があります<sup>38</sup>。
- **カスタマイズの必要性:** 事前トレーニング済みモデルで要件を満たせるか、あるいは特定のオブジェクトやラベルを認識するためのカスタムモデルトレーニング機能（AutoML、Custom Labelsなど）が必要かを評価します<sup>3</sup>。

- ベンダーサポートとドキュメンテーション: 問題発生時のサポート体制や、開発を円滑に進めるためのドキュメントの充実度は、特に複雑な導入において重要となります<sup>16</sup>。
- データプライバシーとセキュリティ: 業界規制や企業のコンプライアンス要件を満たすか、データの保存場所やアクセス管理、特に顔認識のような機密性の高いデータの取り扱いに関するポリシーを確認する必要があります<sup>8</sup>。

## ニーズに基づいた推奨事項

上記の考慮事項を踏まえ、いくつかの典型的なシナリオに基づいた推奨事項を以下に示します。

- 大規模・クラウドネイティブプロジェクト: 既存のクラウド戦略、必要な機能セット、料金への感度を考慮し、Google Cloud Video AI、AWS Rekognition Video、Azure AI Video Indexerの中から比較検討することを推奨します。各プラットフォームのエコシステムとの連携の容易さも重要な判断材料となります。
- 特定の産業ニーズ:
  - 製造業の作業分析: Ollo Factoryが提供する特化機能が有力な候補となります<sup>11</sup>。
  - 小売業の店舗分析: AWLやSCORERが提供するエッジAIソリューションや店舗向け機能が適している可能性があります<sup>52</sup>。
  - 産業設備の検査・O&M: ToshibaのSATLYSが提供する変状検知や異常検知モデル、およびオンプレミス/エッジ対応が有効な場合があります<sup>53</sup>。
- エッジコンピューティング要件: SCORER、SATLYS、AWL、そしてAzure Arc経由のAzure AI Video Indexerが、エッジでの処理を必要とする場合の主要な検討対象となります<sup>38</sup>。
- 新しいインタラクション/ナレッジマネジメント: 動画コンテンツとの対話的な情報探索や要約・マニュアル生成を重視する場合は、Video Questorのユニークなチャットベースのアプローチを検討する価値があります<sup>50</sup>。
- 予算重視のプロジェクト: 初期開発や小規模なワークロードに対しては、Google Cloud、AWS、Azureが提供する無料枠や無料試用版を最大限活用することが有効な戦略です<sup>9</sup>。

## 最終的な考慮事項

どのサービスを選択するにせよ、最終的な決定を下す前に、実際の動画データとユースケースを用いて概念実証(PoC)やトライアルを実施し、パフォーマンス、精度、そして自社の要件への適合性を検証することが極めて重要です<sup>53</sup>。

また、AI技術、特に動画分析の分野は急速に進化しています。各ベンダーは継続的に新機能の追加やモデルの改善を行っているため<sup>41</sup>、市場の動向やベンダーからのアップデート情報を定期的に確認し、常に最新の情報を基に判断することが求められます。

## 引用文献

1. AIによる動画認識・動画解析とは？活用・導入事例7選！仕組みとメリット・デメリットを完全解説！, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://ai-market.jp/purpose/ai-video-analysis/>
2. Working with stored video analysis operations - Amazon Rekognition, 4月 17, 2025にアクセス、<https://docs.aws.amazon.com/rekognition/latest/dg/video.html>
3. Video AI and intelligence | Google Cloud, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://cloud.google.com/video-intelligence>
4. Video Intelligence API Review & Alternatives [2025] - Tavus, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.tavus.io/post/video-intelligence-api>
5. Microsoft Azure AI Video Indexer - Unlock Video Insights, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://vi.microsoft.com/>
6. Amazon Rekognition - Video - AWS, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://aws.amazon.com/rekognition/video-features/>
7. Image Recognition Software, ML Image & Video Analysis - Amazon Rekognition - AWS, 4月 17, 2025にアクセス、<https://aws.amazon.com/rekognition/>
8. What is Azure AI Video Indexer? - Learn Microsoft, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/azure-video-indexer/video-indexer-overview>
9. Azure AI Video Indexer - Video Analyzer for Media | Microsoft Azure, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://azure.microsoft.com/en-us/products/ai-video-indexer>
10. 動画解析DXソリューション | 株式会社インテージテクノスフィア, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.intage-technosphere.co.jp/solution/services/video-analytics-solution/>
11. 住友電装、AIによる動画解析でカイゼンの立案と実施を加速化 - ZDNET Japan, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://japan.zdnet.com/article/35220279/>
12. AWS vs. Azure vs. Google Cloud: A Complete Comparison - DataCamp, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.datacamp.com/blog/aws-vs-azure-vs-gcp>
13. Artificial Intelligence and Machine Learning: AWS vs Azure vs GCP - Pluralsight, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.pluralsight.com/resources/blog/cloud/aws-vs-azure-vs-gcp-artificial-intelligence-and-machine-learning>
14. Vision AI: Image and visual AI tools | Google Cloud, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://cloud.google.com/vision>
15. A Comparative Analysis of Amazon Rekognition vs. Google Cloud Vision AI vs. Azure Custom Vision - CloudThat, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.cloudthat.com/resources/blog/a-comparative-analysis-of-amazon-rekognition-vs-google-cloud-vision-ai-vs-azure-custom-vision>
16. Video AI とインテリジェンス | Google Cloud, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://cloud.google.com/video-intelligence?hl=ja>
17. Re: Exploring AutoML video intelligence - Google Cloud Community, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.googlecloudcommunity.com/gc/AI-ML/Exploring-AutoML-video-intelligence/m-p/837824>
18. 料金 | Cloud Video Intelligence API | Google Cloud, 4月 17, 2025にアクセス、



- <https://cloud.google.com/video-intelligence/pricing?hl=ja>
19. How to Choose a Video AI Platform and Evaluate its Results - Streaming Media, 4月 17, 2025|にアクセス、  
[https://www.streamingmedia.com/Articles/Editorial/Featured-Articles/How-to-Choose-a-Video-AI-Platform-and-Evaluate-its-Results-128155.aspx?utm\\_source=related\\_articles&utm\\_medium=gutenberg&utm\\_campaign=editors\\_selection](https://www.streamingmedia.com/Articles/Editorial/Featured-Articles/How-to-Choose-a-Video-AI-Platform-and-Evaluate-its-Results-128155.aspx?utm_source=related_articles&utm_medium=gutenberg&utm_campaign=editors_selection)
  20. Google Demo: Accelerating Video Intelligence with Google AI - YouTube, 4月 17, 2025|にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=Vc2XrccNpm0>
  21. Video Intelligence: Qwik Start | Google Cloud Skills Boost, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://www.cloudskillsboost.google/focuses/603?parent=catalog>
  22. Getting Started With Google Cloud Video Intelligence API In Python | GCP Tutorial For Beginners - YouTube, 4月 17, 2025|にアクセス、  
[https://www.youtube.com/watch?v=Q\\_OvDsQ9YkE](https://www.youtube.com/watch?v=Q_OvDsQ9YkE)
  23. How to analyze real time videos with Cloud Video Intelligence API, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://www.googlecloudcommunity.com/gc/AI-ML/How-to-analyze-real-time-videos-with-Cloud-Video-Intelligence/td-p/778186>
  24. Calling Amazon Rekognition Video operations, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://docs.aws.amazon.com/rekognition/latest/dg/api-video.html>
  25. Amazon Rekognition (高精度の画像・動画分析サービス) - AWS, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://aws.amazon.com/jp/rekognition/>
  26. Working with streaming video events - Amazon Rekognition, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://docs.aws.amazon.com/rekognition/latest/dg/streaming-video.html>
  27. 料金 - Amazon Rekognition | AWS, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://aws.amazon.com/jp/rekognition/pricing/>
  28. Detecting faces in a stored video - Amazon Rekognition - AWS Documentation, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://docs.aws.amazon.com/rekognition/latest/dg/faces-sqs-video.html>
  29. 6 Best Video Intelligence Tools 2025 - Labellerr, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://www.labellerr.com/blog/video-intelligence-tools/>
  30. Amazon Rekognition Video for media analysis - AWS, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://aws.amazon.com/rekognition/media-analysis/>
  31. What Is Amazon Rekognition? - YouTube, 4月 17, 2025|にアクセス、  
[https://www.youtube.com/watch?v=fnFpE6UEd\\_I](https://www.youtube.com/watch?v=fnFpE6UEd_I)
  32. Amazon Rekognition Streaming Video Events for Connected Home - AWS, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://aws.amazon.com/rekognition/connected-home/>
  33. Amazon Rekognition Video | AWS Machine Learning Blog, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://aws.amazon.com/blogs/machine-learning/category/artificial-intelligence/amazon-rekognition-video/>
  34. Azure AI Video Indexer documentation - Learn Microsoft, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/azure-video-indexer/>
  35. Analyze Video with Video Indexer | Azure AI Vision Exercises - GitHub Pages, 4月 17, 2025|にアクセス、  
<https://microsoftlearning.github.io/mslearn-ai-vision/Instructions/Exercises/06-video-indexer.html?azure-portal=true>

36. Azure AI Video Indexer Portal - Cognitive Video Indexing, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.videoindexer.ai/>
37. Home - Microsoft Azure API Management - developer portal - Video Indexer, 4月 17, 2025にアクセス、<https://api-portal.videoindexer.ai/>
38. Expanding our Private AI Ecosystem with Microsoft's Azure AI Video Indexer, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://news.broadcom.com/artificial-intelligence/expanding-our-private-ai-ecosystem-with-microsofts-azure-ai-video-indexer>
39. Azure AI Video Indexer とは? | Microsoft Learn, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-video-indexer/video-indexer-overview>
40. Azure AI Video Indexer で動画分析してみた | QESブログ - 株式会社QUICK E-Solutions, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.qes.co.jp/media/azure/azureai/a486>
41. Azure AI Video Indexer release notes - GitHub, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://github.com/MicrosoftDocs/azure-video-indexer/blob/main/azure-video-indexer/release-notes.md>
42. Azure-Samples/azure-video-indexer-samples: Contains the Azure Media Services Video Indexer samples - GitHub, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://github.com/Azure-Samples/azure-video-indexer-samples>
43. Azure AI Video Indexer pricing, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://azure.microsoft.com/en-us/pricing/details/video-indexer/>
44. Frequently asked questions about Azure AI Video Indexer - Learn Microsoft, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/azure-video-indexer/faq>
45. Managed AIを検証してみた。『Microsoft Azure Video Indexer Portal』編 | 株式会社CAM, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://cam-inc.co.jp/p/techblog/829345605925994498>
46. Azure AI Video Indexer とは？機能や価格、使い方や API を解説 | AvePoint, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.avepoint.com/jp/blog/microsoft-365-ja/about-azure-ai-video-indexer>
47. Azure AI Video Indexer の価格, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/pricing/details/video-indexer/>
48. Azure AI Video Indexer についてよく寄せられる質問 - Learn Microsoft, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-video-indexer/faq>
49. Azure AI Video Indexer リリース ノート | Microsoft Learn, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/azure-video-indexer/release-notes>
50. Video Questor - 動画と“チャットで会話できる” 生成AI×動画解析ツール, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://solution.ndisol.jp/videoquestor>
51. 撮りためた映像データをAIがあらゆる手法で解析するサービス「OPTiM AI Camera Analytics」を発表あらゆる業界のさまざまな用途に応じた映像解析を実現する お客様側で柔軟なAI解析が可能な世界初※1のサービス, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.optim.co.jp/newsdetail/20241023-pressrelease-01>
52. SCORER | 映像解析AIプラットフォーム | AIシステム開発, 4月 17, 2025にアクセス、

- <https://www.scorer.jp/>
53. SATLYS(サトリス)- 東芝のAI分析サービス・映像解析AI | 東芝 ..., 4月 17, 2025にアクセス、<https://www.global.toshiba/jp/products-solutions/ai-iot/satlys.html>
  54. Lightblue | 大規模言語モデル・画像解析のマルチモーダルAIスタートアップLightblue, 4月 17, 2025にアクセス、<https://www.lightblue-tech.com/>
  55. Ollo FactoryがGEヘルスケア・ジャパン株式会で導入 - PR TIMES, 4月 17, 2025にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000104447.html>
  56. イケてる画像認識AIベンチャー・スタートアップ企業まとめ15選【国内】、4月 17, 2025にアクセス、[https://techgym.jp/column/startup/image\\_recognition\\_15/](https://techgym.jp/column/startup/image_recognition_15/)
  57. 【2024年最新】国内/海外の注目生成AIスタートアップ企業15社 - メタバース総研, 4月 17, 2025にアクセス、[https://metaversesouken.com/ai/generative\\_ai/startup/](https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/startup/)
  58. 【厳選】AIベンチャー・スタートアップ企業38選を紹介 | GeeklyMedia(ギークリーメディア), 4月 17, 2025にアクセス、[https://www.geekly.co.jp/column/cat-technology/ai\\_venturecompany\\_introduce/](https://www.geekly.co.jp/column/cat-technology/ai_venturecompany_introduce/)
  59. 画像認識・画像解析・画像処理のAI開発に強い12企業！日本最大級AIコンシェルジュ厳選【2025年最新版】、4月 17, 2025にアクセス、[https://ai-market.jp/services/image\\_recognition\\_ai\\_company/](https://ai-market.jp/services/image_recognition_ai_company/)
  60. 北海道発グローバルスタートアップ！エッジAI・画像解析技術で新たな価値創出へ／AWL株式会社, 4月 17, 2025にアクセス、<https://www.nedo.go.jp/media/startups/20241101.html>
  61. 画像認識・画像解析のAIシステム開発が得意な企業11選 | 株式会社LIG(リグ), 4月 17, 2025にアクセス、<https://liginc.co.jp/blog/system/640727>
  62. AWL(アウル)株式会社 | エッジAIカメラ・VMS、AIデジタル ..., 4月 17, 2025にアクセス、<https://awl.co.jp/>
  63. 株式会社Ollo | 現場の最適化を、驚くほどシンプルに。、4月 17, 2025にアクセス、<https://www.ollo.jp/>
  64. 【スマートシティ実装事例】AWL株式会社のAWLBOX、HANEDA INNOVATION CITYに設置決定、既設カメラのAI化を通じて人流や属性の把握/分析が可能に - PR TIMES, 4月 17, 2025にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000225.000057654.html>
  65. AWL株式会社 - GitHub, 4月 17, 2025にアクセス、<https://github.co.jp/customer-stories/awl>
  66. AWLとは - 株式会社千修 | 戦略デザイン本部, 4月 17, 2025にアクセス、[https://sdd.senshu-g.co.jp/wp-content/uploads/2023/09/senshu\\_AWL.pdf](https://sdd.senshu-g.co.jp/wp-content/uploads/2023/09/senshu_AWL.pdf)
  67. AWL BOXとは | AWL(アウル)株式会社 | エッジAIカメラ・VMS、AIデジタルサイネージソリューション, 4月 17, 2025にアクセス、<https://awl.co.jp/services/awl-box/>
  68. AWLBOX - Microsoft Azure Marketplace, 4月 17, 2025にアクセス、<https://azuremarketplace.microsoft.com/ja-jp/marketplace/apps/awl.awlbox?tab=overview>
  69. 知万宝-技術紹介-5, 4月 17, 2025にアクセス、<https://chimanho.jp/p2a-5.html>
  70. 導入事例 - 海外AIリテールメディアソリューション - Immersive Inc.(株式会社イマーシブ), 4月 17, 2025にアクセス、<https://immersive.tokyo/works/031/>
  71. ビスコサイネージの新サービス“AIカメラ分析「AWL Lite」”について徹底解説！, 4月 17, 2025にアクセス、<https://bisco-signage.jp/blog/digital-signage/awl-lite/>
  72. サッポロファクトリーで実施。AI広告による商業施設内飲食店舗の集客ソリューションの

- 実証実験, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000081.000016744.html>
73. AIカメラ「AWL」の特徴と導入事例を紹介します。、4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.ai-camera-canchi.net/ai-cam-list/awl.html>
74. [メディア掲載] 株式会社Will Smart: AWL Lite 導入事例, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://awl.co.jp/news/20220425/>
75. カフェの展示ブースに来店者のデータを取得するAIカメラ付きタブレットを提供 - 株式会社Will Smart, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://willsmart.co.jp/casestudy/data-science/20220422/>
76. サッポロファクトリー、AI広告による商業施設内飲食店舗集客ソリューションの実証実験第2弾を実施, 4月 17, 2025にアクセス、  
[https://aismiley.co.jp/ai\\_news/ai-recommend-restaurant/](https://aismiley.co.jp/ai_news/ai-recommend-restaurant/)
77. [導入事例] スーパーマーケット・トレードショー2021でAWLのAI検温ソリューションが活躍, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://awl.co.jp/news/20210708/>
78. AWLのAI社会実装の最前線 AI技術活用 of 取組事例と課題 - 経済産業省, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.chubu.meti.go.jp/b35innovation/meetupchubu/event/pdf/slide32-1.pdf>
79. エッジAI導入によるデジタル変革: 市場動向、導入事例、ROI評価 | HP Tech&Device TV, 4月 17, 2025にアクセス、  
[https://jp.ext.hp.com/techdevice/ai/ai\\_explained\\_08/](https://jp.ext.hp.com/techdevice/ai/ai_explained_08/)
80. 月刊自動認識のバックナンバー (4ページ目 15件表示) - Fujisan, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.fujisan.co.jp/product/775/b/list/?page=4>
81. 【飲食店】AIカメラ・クラウドカメラ・IoTカメラの活用事例5選 - lotBiz, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://iot.dxhub.co.jp/articles/w8k8lallgm2b>
82. 事例紹介 AWL株式会社: GitHub Enterprise Cloudを使ったグローバル規模でのAI開発, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://github.blog/jp/2020-03-04-customer-stories-awl/>
83. 導入事例 | Idein(イデイン)株式会社 — エッジAIのスタートアップ, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://www.idein.jp/ja/cases>
84. クラウドAIとは? エッジAIとの違いやメリット、最新事例10選, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://licensecounter.jp/azure/blog/ai/cloud-ai.html>
85. 大手AI文字起こしの精度を比較してみたGoogle vs OpenAI Whisper vs Azure vs AWS - note, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://note.com/izai/n/nca55180d493e>
86. 音声認識で文字起こしの精度を比較検証! 話者ダイアライゼーションに対応サービス3選!, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://weel.co.jp/media/diarization-comparison/>
87. AI文字起こしの精度を徹底比較! 主要ツールの実力を検証, 4月 17, 2025にアクセス、  
<https://media.securememo-cloud.com/articles/in-depth-comparison-of-the-accuracy-of-ai-transcription/>